

三沢市地域公共交通会議 会議録

会議名称	令和元年度 第2回三沢市地域公共交通会議					
開催日時	令和元年8月20日(火) 10時30分～11時45分					
場 所	三沢市役所本館4階 大会議室					
出席者	会 長	小渡 章好	副会長	河村 一典	監 事	立崎 裕輔
	監 事	沼田 巖	委 員	橘 イト	委 員	船見 昌功
	委 員	長内 誠	委 員	須藤 健(代理)	委 員	佐藤 美仁
	委 員	山村 雅文	委 員	向中野 貢	委 員	山本 剛志
	委 員	関 敏徳	委 員	澤田 潤	オブザーバー	一戸芳夫(代理)
	事務局	三沢市：新堂参事兼課長、根岸副参事兼課長補佐、和田係長、富田主査、 中村主査 株式会社ケー・シー・エス：増子				
会議次第	1 開 会 2 会 長 挨拶 3 議 事 (1) 案件1 「三沢空港連絡バスの運賃について」 (2) 案件2 「三沢市コミュニティバスの運賃について」 (3) 案件3 「バス停留所の新設について」 (4) その他 4 閉 会					
会議の経過及び審議結果(概要)						
1 開会 2 会長挨拶 3 議事 (1) 案件1 「三沢空港連絡バスの運賃について」 ・資料案件1に基づき事務局および十和田観光電鉄より説明。 <特に意見が無いため承認> (2) 案件2 「三沢市コミュニティバスの運賃について」 ・資料報告2に基づき事務局より説明。 <特に意見が無いため承認>						

(3) 案件3「バス停留所の新設について」

- ・資料報告3に基づき事務局および十和田観光電鉄より説明。

<主な意見>

(小渡会長)

- ・何故今までバス停が設置されていなかったのか。

(事務局)

- ・バス路線を再編する以前までは、小松ヶ丘を経由するバスが運行していたが、再編にあたってどうしても切らざるを得ない状況にあった。
- ・小松ヶ丘の住民の利便性を下げる形にはなったが、六戸町民バスが走行していたこともあり、六戸町には事情を説明しながら再編を進めてきた経緯がある。
- ・今回の件については、三沢市民でなくともコミュニティバスの利用者であることに変わりはないので、六戸町と協議しながら、設置にかかる費用を折半しながら進めていくこととなった。
- ・実施時期については、ガイドマップの更新に合わせて10月1日から実施する。

(小渡会長)

- ・その他に意見はあるか。
- ・無いようなので案件3については承認とする。

(4) その他

<主な意見>

(河村副会長)

- ・周知・広報の仕方について改めて検討してほしい。利用者の多くは高齢者であり『改正の日まで知らなかった』『使おうと思ったらバスが来なかった』という意見を聞いている。おいらせ町では運転手から声かけやパンフレットで周知していると聞いたことがある。
- ・高齢者は、バス停に改正内容を貼っていたとしても、いつも利用しているから確認しないことが多いと思われる。

(事務局)

- ・100円区間の150円への値上は4月1日からとなるが、駅ロータリーの供用開始も同時期に実施することとしている。駅ロータリーの整備に合わせてコミュニティバスのダイヤの見直しも行うので、ガイドマップも更新しながら変更内容の周知を図っていく。
- ・また、マップだけでなく広報を活用しながら、1枚紙を織り込んで毎戸配布する予定。路線再編時にはポケットティッシュにチラシを入れて、路線再編がある旨を市役所内の税務課や市民課などに設置・配布して周知を図っている。
- ・このような取り組みをしているところではあるが、周知不足に対する声は各所から聞いているので、工夫しながら取り組んでいきたい。

(小渡会長)

- ・情報発信する側は十分内容を把握していると思うが、市民の側に立つと届いていないということが多い。
- ・せっかく良い取り組みをしても内容が伝わらないということは大きな課題。他の事例で参考になる取り組みがあればご意見いただきたい。

(佐藤委員)

- ・バスを普段から利用する方は大体同じなので把握している。印刷したものを車内で配布することはしている。

(沼田委員)

- ・近隣市町村でもバスを運行しているかと思うが、どここの自治体でも赤字なのか。

(佐藤委員)

- ・どこの自治体も赤字。みーばすには補助金が使われており、国や県、沿線市町村の補助金や、それ以外のもっと赤字が多い路線については沿線市町村だけの補助もある。欠損額をすべてまかなえていない状況ではあるが、昨年の合計は約1億6千万円の補助金があった。

(沼田委員)

- ・値上げをしたことでどの程度の期間、運行を継続できるのか。

(事務局)

- ・ガイドマップに記載があるとおり、防衛省再編関連訓練移転等交付金事業によって交付金を充当して取り組んでいる。全額ではなく、市内の運行分となるが8~9割を交付金に当てている。将来的にいつまで交付されるかはわからない状況のため、数年かけて段階的に運賃を上げざるを得ない状況になるかもしれない。
- ・また、高齢社会となっている今、移動手段の確保は議会等で注目を浴びている。バスに関して検討しているところではあるが、今後はタクシーを活用した方法も検討しなければならない。三沢市の負担はなくてはならない部分であるため、負担を軽減するような取り組みや、利用者を増やす取り組みを検討していきたい。

(沼田委員)

- ・150円の区間外の高齢者が使いやすい、割引などの取り組みは何か検討しているか。

(事務局)

- ・持続可能な公共交通を考える上で、割引の取組みは難しいかもしれないが、高齢者でも使いやすい公共交通という視点では検討していく。その対応策の一つとして、タクシーの利活用についてもタクシー協会と協議している。また、より具体的なニーズ調査の必要性も感じている。

(沼田委員)

- ・他の自治体では、乗り合いタクシーで安く移動している事例があるようだ。ただし、ある程度の人数が集まる必要があるという。

(小渡会長)

- ・その他に何かあるか。

(長内委員)

- ・情報提供になるが、本年度のおでかけ交通博は10月18日に八戸市の八戸グランドホテルで実施予定となっている。トークセッションやポスターセッション等もあるので、是非参加していただきたい。

(小渡会長)

- ・これまで3回参加している。どこの自治体も苦勞して試行錯誤しながら取り組んでいるようだ。刺激が得られると思うので、ぜひとも参加してほしい。

4 閉会